

けんぱくものしりシート

とりがたちゅうこうどき

鳥形注口土器



かいせつじん
解説員

こちらは盛岡市 繫の 萩内遺跡から見つかった
今から約3400年前の 縄文時代後期の土器です。
土器をよく観察してみましょう。



もりおかし
盛岡市

しだない いせき
萩内遺跡



ケンくん

見て見て！鳥の形そっくりだよ。



ハクちゃん

からだ全体が容器になっているのね。

空洞が鳥の目に見えるよ。
モデルはどんな鳥かな？



尾羽が注ぎ口になっているよ。
容器の中の液体を注げるんだ。

胴体について
いる線と線の
間には縄目
もようがつい
ているよ。



底に穴が2個あ
いているよ。※ア
スファルトを使
って修理したあ
とがあるんだ。



細かいところにもちゃんともようがあるんだね。

※アスファルト：秋田

～新潟の日本海沿岸や
北海道の噴火湾等の石

油産出地からとれる黒

いネバネバした物質。

縄文人は土器や石器の

接着などに使用した。

尾羽が注ぎ口になっているなんて気づかなかった！

液体を注ぐために作られた注ぎ口がある土器を注
口土器と呼んでいます。展示室には他にもいろい
ろな注口土器がありますよ。探してみましょう。



ちゅうこうどき 注口土器ってどんな土器？



ちゅうこうどき 注口土器 一関市花泉町

かいとりかいつかしゆつど 貝鳥貝塚出土



ちゅうこうどき 注口土器 いわてまち 岩手町

とよおか いせきしゆつど 豊岡遺跡出土

そそぐちがある土器は世界各国にみられますが、日本の縄文時代の注口土器は世界最古といわれています。縄文時代中期から現れて、後期・晩期に多く作られ、弥生時代には姿を消しました。東日本で多く見つかっています。中国から伝わった「きゅうす」や「どびん」は江戸時代中頃から広まりました。形はよく似ていますが、縄文時代の注口土器とは関係ないようです。



どんなふうに使われたの？



いろいろな説があります。はじめは木の実のアク抜きや日常の煮炊きに使われていたと考える研究者もいます。次第に小型化し、縄文時代後期・晩期にはていねいな装飾や赤く塗られたものが登場することから、山ぶどうなどの果実で作ったお酒を入れ、まつりやいのりの儀式など特別な場面で使われるようになっていったのではないかと考えられています。アスファルトやうるしなどを接着剤として修理したあとがあるものも見つかることから、こわれても大切に使い続けられたのでしょう。



たしか、土偶もまつりやいのりの時に使われたといわれているよね。



注口土器も縄文人の精神文化と深くかわる貴重な道具だったのかもしれないね。



参考にした本 『注口土器の集成研究』 雄山閣 2007年/ 『いわて未来への遺産 遺産は語る 旧石器～古墳時代』 いわてにっぽんしゃ 2000年 他

らいげつ (9月) の
けんぱくものしりシートは
れきし 歴史-21だよ！
おたのしみに！



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

※「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。最新情報ではございませんので、あらかじめご了承ください。
※「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。